６．摘果

高品質な果実を収穫するために、適正な着果数に調整するために摘果を行います。

残す実は、果実が大きく重くなった時に枝や果実同士がぶつからない場所のものを選び、葉からの栄養分を取り入れられるよう葉の下を残します。

注意する点は、種の中にある胚が二つある双胚果は、果実の変形や実割れの原因となりますので取り除きましょう。また、せん孔細菌病や灰星病、害虫被害・サビ果があるものを除去します。

結果数の目安は、次のとおりです。

・長果枝（３０㎝前後）は２～３個です。
・中果枝及び短果枝（２０㎝～１０㎝前後）は１～２個です。
・ネクタリンは強めの樹勢で、長果枝を多くするようにしましょう。

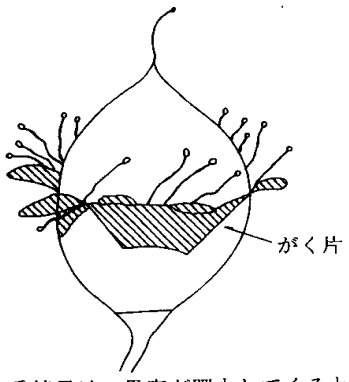
（１）予備摘果

① 満開後２０日から３０日頃までが予備摘果を始める時期となります。結実が確認でき、良好な品種から進めます。

② 満開後２０日頃になると、生理落果する果実は果面の一部が茶緑色になり生気を失います。満開後３０日頃までに自然落果します。

③ 受精果（落果しない）はがく片が基部から離れ萎びてきます。

④ 予備摘果時期が遅れると果実肥大効果が少なくなり、果柄が硬くなり取れにくくなります。



受精果は、果実が肥大してくると、がく片が基部から離れ萎びてくる。
受精果

⑤ 予備摘果を始める時期の目安は、結実良好品種（白鳳、あかつき、なつっこ等）は、満開後２０日頃（４月下旬頃）から、結実不安定品種（川中島白桃，秀峰等）は、満満開後３０日頃（５月上中旬頃）から行います。生理落果が多い川中島白鳳は最後にします。

※以上は、凍霜害被害等の無い通常事の目安です。結実量が特に少ない場合は、樹勢調節と生理落果の抑制のため、予備摘果を遅らせるか見送ることが必要です。

（２）着果量と着果位置

① 仕上げ摘果の倍の量が基準

・長果枝（３０ｃｍ以上）⇒中央から先端に４～５果
・中果枝（３０～１０ｃｍ）⇒先端側に２～３果
・短果枝（１０ｃｍ以下）⇒先端に１果

② 注意点

・本摘果の倍量を残します。
・大きくて扁平な果実を残します。
・小さい果実、奇形果、病害虫被害果を落とします。
・同節に２果着生しているものは１果にします。

・葉芽がある果実を残します。
・側方から下向きの果実を残します。
・主枝や亜主枝上の果実や結果枝の基部の果実は落とします。

（３）本摘果について

摘果は早く行うほど果実肥大の効果は高いので、摘蕾・摘花を含めた予備摘果と本摘果、２段構えの着果管理が大玉で品質の良いものを揃えるために大切です。

① 時期

・果形の良否がはっきり判別できる満開４０～５０日頃が目安です。

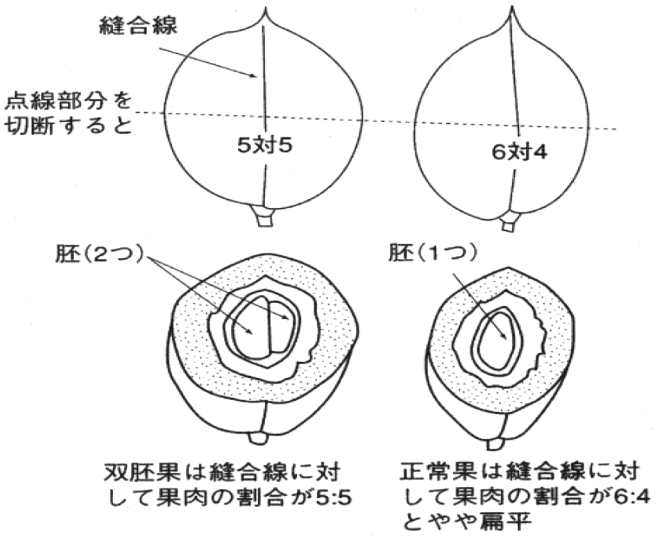
※満開後５０日以降から硬核期となります。核割れの多い品種ほど、この時期の摘果は避けたいものです。

② 程度（結果枝別の着果基準）

・長果枝（３０ｃｍ以上）⇒２～３個
・中果枝（３０～１０ｃｍ）⇒１～２個
・短果枝（１０ｃｍ以下）⇒５本で１個

※大きい果実を残し、ガク片が残った発育不良果・変形果・病害虫被害果及び着果位置の悪いものを落とします。

③ 残す果実

・長手（ラグビーボール型）で大きく、正常な色沢の果実を残します。
・左右均等に肥大した丸い果実は、双胚果であるので落とします。

メイグランドは玉が小さいため、桃に比べると着果数量が多くなります。桃より３割増しの数量を目安にしてください。
ただし、袋掛けをしない品種のため、摘果をていねいに行わないと、ならせすぎになるので注意しましょう。